

**分科会活動報告****病院・高齢者施設環境分科会—2022年度活動報告**

柳 宇

工学院大学 建築学部

**FY 2022 Annual Activity Report from Hospital and Elderly Care Facilities Subcommittee**

Yanagi U

School of Architecture, Kogakuin University

**1. 分科会メンバー**

代表：柳 宇 (工学院大学)

幹事：尾方壮行 (東京都立大学)

委員：東賢一 (近畿大学)、井田寛 (日本設計)、開原典子 (国立保健医療科学院)、鍵直樹 (東京工業大学)、金 勲 (国立保健医療科学院)、小林健一 (国立保健医療科学院)、嶋崎典子 (国立感染症研究所)、野崎淳夫 (東北文化学園大学)、包 理 (日本無機)、長谷川麻子 (宮城学院女子大学)、長谷川兼一 (秋田県立大学)、林基哉 (北海道大学)、本間義規 (国立保健医療科学院)、森本正一 (新菱冷熱工業)、吉野博 (東北大学)

**2. 2022年度活動状況概要****2.1 委員会開催状況**

今年度は、Web会議で委員会を4回開催し、情報共有を図るとともに、有益な意見交換を行った。以下に、特別養護老人ホームを対象に実施したアンケート調査の概要と主な結果について報告する。

**2.2 アンケート調査方法と結果の概要****(1) 調査対象と方法**

札幌市、東京都23区、福岡市内にある入所定員50人以上高齢者施設を対象に、郵送によるアンケート調査を行った。アンケートの主な内容は、新型コロナウイルス感染症感染者の発生状況、感染が起きた対象室、感染発生時の空調・換気運転状況、保健所などの調査によって指摘された感染経路、施設内のゾーニング、取られた対策などであった。

**(2) アンケートの配布と回収状況**

札幌市、東京都23区、福岡市内にある対象はそれぞれ79施設、306施設、69施設であり、アンケートの回収状況を表1に示す。無効回答は2件があり、いずれも住所のラベルが剥がされたものであった(地域不明)。

**表1 アンケート配布と回収状況**

	札幌市	東京23区	福岡市	合計
送付数	79	306	69	454
有効回答数	19	46	14	79
有効回答率	24%	15%	20%	17%

(3) 主な結果

以下にアンケートの質問に対する回答を単純集計した主な結果を示す。

「Q1：2020年の感染拡大から現在までの期間で、貴施設内で新型コロナウイルスの感染者が発生しましたか。」に対して、回答が得られた79施設の内78施設（99%）は感染者の発生があった。

「Q1-1 感染者数 合計（ ）名」に対する回答では、札幌市18施設計662名（1施設当たりの平均感染者数37名）、東京都23区46施設計1913名（同42名）、福岡市14施設計543名（同39名）であった（全体で1施設当たり平均40名）。

「Q1-2 感染が起きた対象室（A～C）と感染者数が多い順に最大5ヶ所までご記入ください。」の質問に対する回答の結果を図1に示す。

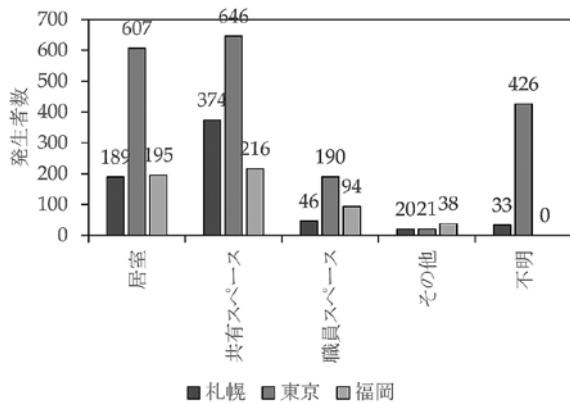


図1 地域別対象室別発生室数

共有スペース計1236名（40%）、居室計991名（32%）、職員スペース計330名（11%）であった。

「Q1-3 感染者発生時の空調・換気運転状況（Q1-2の対象室1についてご記入ください。）をお答えください。感染者が発生していない場合は、共有スペースの通常の状態をお答えください。」の質問に対する回答の結果を図2に示す。Aと答えた施設数は73施設（92%）であり、機械換気と自然換気の両方が積極的に行われたことがうかがえる。

「Q1-5 感染者発生時に取られた対策について、下記の中からあてはまるものを選択し、括弧内に“○”を入れてください（複数回答可）。感

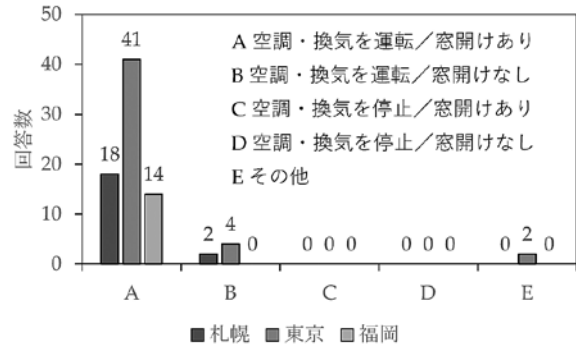


図2 発生時地域別空調・換気運転状況

染者が発生していない場合は、共有スペースの通常の状態をお答えください。」に対する回答の結果を図3に示す。換気による対策（A、B）、空気清浄機の設置（D）、扇風機またはサーキュレーター

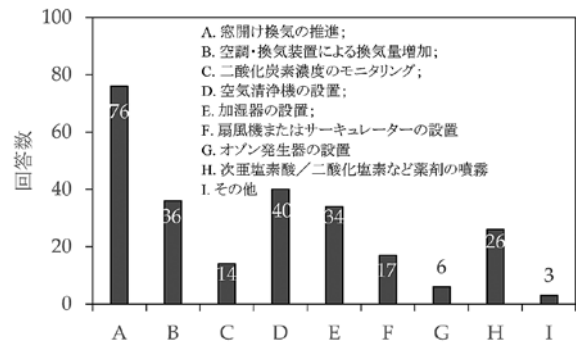


図3 発生時の対策方法

ターの設置の回答数は30以上であった。

自由記述の質問「Q1-6 感染者発生時に保健所などの調査によって指摘された感染経路について、自由に記述してください。」に対して、職員による持ち込みが16件、利用性による持ち込みが3件、家族・訪問者からの持ち込みが1件、共有スペースが密になっているが2件であり、持ち込み計20件で回答数23件の87%を占めている。

また、自由記述の質問「Q1-7 新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえて、施設内のゾーニングについて工夫されている点があれば、自由に記述してください。」に対して43件の回答が得られた。ゾーニング・エリア分けが19件（44%）、動線の工夫が12件（28%）であった。

### 3. まとめ

今年度では、本分科会において情報共有を図ったとともに、有益な意見交換を行った。

本分科会で実施した特別養護老人ホームのアンケート調査の結果に示されている通り、99%の施設は感染者の発生があり、COVID-19パンデミック期間中にほとんどの施設に感染者が発生した（1施設当たり平均40名）。また、得られた回答では、COVID-19の感染ルートのはほとんどは持ち込みであった（回答数87%）。とられた対策として最も多かったのは換気（機械換気・自然換気）やゾーニング・エリア分け、動線の工夫であり、この両者を合わせると回答数の72%であった。